

東レ株式会社

2022年3月期 決算説明会
質疑応答要旨

日時:2022年5月13日

説明者:代表取締役社長 日覺 昭廣

本資料中の業績見通し及び事業計画についての記述は、現時点における将来の経済環境予想等の仮定に基づいています。

本資料において当社の将来の業績を保証するものではありません。

<全般>

Q. 設備投資の方針について教えてほしい。

- A. 新型コロナウイルスによる事業環境変化およびアフターコロナにおける新常態を見極めたうえで、引き続き案件を厳選して実行していく。2020－2021 年の実績としては、コロナ禍の影響で、韓国、中国、中東、米国等全ての地域で1-1.5 年程設備の立ち上げが遅れた。また、工事の遅れや、日本からのスーパーバイザーが派遣できないといった事態が発生した。さらにはコロナ禍による需要の減少により、当初の計画通りに発案や実行を進めなかったということもある。このような理由により“AP-G 2022”期間中の設備投資額は減少した。ただし、炭素繊維やその他素材で需要が増加しており、そのための増設を検討している。

<繊維>

Q. 21 年度の業績と今後の方向性について教えてほしい。

- A. コロナ禍で在宅勤務が進み、衣類はフォーマルウェアの市場が極端に縮小し、カジュアル市場に移った。また、コロナによる移動制限やロックダウン等により、市場が大きく縮小し、大幅な減収につながった。これら市場構造変化による売り上げ減少に加えて、原料価格高騰や物流費高騰に伴うスプレッド悪化も加わった。
- 今後、付加価値化、差別化に徹底的に取り組むが、サステナブル素材が一つの大きな切り口になっていくと考えている。マテリアルリサイクルでは&+®、またケミカルリサイクル、バイオ等を拡大していく。また、商品の高度化により、これまでにない全く新しい商品を投入し続ける。数年前に開発した NANODESIGN®の技術を駆使することにより、シルキードライ素材の KINARI™、和紙のような風合いの Camifu®、Qticle™ 等の製品を上市しているが、これらの商品を通じて大手顧客としっかり取り組みを行い、繊維事業の収益を改善していきたいと考えている。

Q. 主力製品別の 22 年度見通しについて教えてほしい。

- A. エアバッグ関連は前年比約 30%強拡大すると見ているが、原燃料価格上昇、半導体等の部品供給不足の影響、ウクライナ情勢の緊迫による自動車需要押し下げの影響は未知数であるが、しっかり取り組んでいきたい。
- PP スパンボンドでは、中国やインドで稼働開始した設備を活用し、22 年度は更に 10% 程度増となる予定。

<機能化成品>

Q. 22 年度の見通しについて教えてほしい。

- A. 樹脂事業は、ABS 樹脂の販売量が増加するがスプレッドは縮小すると見込んでいる。それ以外は増益となる見通し。フィルムは巣籠需要の一巡はあるものの、原料価格、物流コスト上昇の価格転嫁の未達分を挽回する。また、MLCC 用離型フィルム、xEV 用極薄 OPP フィルムの新ラインの通年稼働寄与による増販を見込む。電子情報材料は有機 EL 関連材料や半導体材料を中心に拡販を見込む。

Q. バッテリーセパレータフィルムで大きな減損を計上したが、この事業の今後の位置づけを教えてください。

- A. 当社は車載用途の急拡大に対応するために韓国、ハンガリーで増設してきたが、コロナ禍で環境対応がクローズアップされた結果、EV 化が一挙に進んだ。5-6 年先と見ていた

価格下落が、中国競合の増設により想定より早く起こった。東レとしては汎用ではなく、ハイエンドに特化する方向に舵を切っている。高容量に対応した高性能が要求される民生用途や車載用途の一部に一層注力するようにポートフォリオ転換を進めている。22 年度も厳しい状況が続くが、ポートフォリオ転換が進み、稼働率が向上してくれば収益は改善していくと見込んでいる。今後は、東レの強みである複合技術や、同時・逐次の 2 つの延伸技術、コーティング技術を駆使し、高安全性、高容量、高性能な差別化品で、ハイエンド市場での事業拡大を目指す。それに合わせて旧型設備は改造や更新を実施し、ハイエンドに向けた競争力を強化していく。

<炭素繊維複合材料>

Q. 3Q 時は 21 年度の事業利益見通しを 10 億円としていたが、最終的に 16 億円と 26 億円上振れし、黒字化した。この要因は？

A. 徹底的なコスト削減に取り組んだ成果が出た。圧力容器等一般産業用途は需要が旺盛で供給が追いついていないので、サウスカロライナ工場のラインを今年 2 月から稼働した。

Q. 22 年度の見通しについて教えてほしい。

A. 航空宇宙用途では大手顧客の生産機数引き下げの影響が継続するが、一般産業用途では、ラージトウの風力発電翼向けは需要が堅調で、増設を進めている。増設中の 6 千トンでは 2023 年から稼働開始を予定している。圧力容器向けも需要が拡大するとみている。スポーツ用途は、アウトドアレジャー用途が堅調に推移すると見ている。また、価格転嫁を推進するとともに、徹底的なコストダウンを進める。

以上